

第1回蒲郡市産業振興会議 会議録

開催日時	令和4年7月27日（水）午前10時00分～正午	
開催場所	蒲郡市役所新館5階 庁議室	
出席者	【蒲郡市産業振興会議委員】（敬称略）	
	蒲郡商工会議所	会頭 小池高弘 （小池商事株式会社代表取締役社長）
	蒲郡市観光協会	会長 杉山和弘 （株式会社明山荘 代表取締役社長）
	蒲郡市農業協同組合	代表理事組合長 鈴木茂正
	蒲郡市漁業振興協議会	会長 小林俊雄 （三谷漁業協同組合 代表理事組合長）
	蒲郡鉄工会	会長 近藤昌泰 （株式会社近藤鐵工所 代表取締役会長）
	蒲郡金融協会	会長 河合博 （蒲郡信用金庫 専務理事）
	株式会社ニデック	代表取締役社長 小澤素生
	株式会社金トビ志賀	代表取締役 志賀重介
	株式会社ミスコンシャス	代表取締役社長 小山絵実
	稲葉製綱株式会社	取締役専務 稲葉千穂子
	愛知工科大学	情報メディア学科 准教授 加藤央昌
	愛知大学	地域政策学部教授 戸田敏行
	豊橋技術科学大学	大学院工学研究科 機械工学系教授 高山弘太郎
	蒲郡市	産業振興部部長 池田高啓
	【説明者】	
	(公社) 東三河地域研究センター	主任研究員 佐藤克彦
	【事務局】	
蒲郡市	産業振興部次長 （観光まちづくり・農林水産担当） 廣中朝洋	
蒲郡市	産業振興部産業政策課長 鈴木直美	
蒲郡市	産業振興部観光まちづくり課長 小田芳弘	
(公社) 東三河地域研究センター （ビジョン策定業務受託者）	常務理事・調査研究室長 高橋大輔	

<p>議題</p>	<p>(1) 蒲郡市産業振興会議の会長及び副会長の選出 (2) 統計分析結果について (3) アンケート調査及びヒアリング調査について (4) ビジョンの構成案について (5) 今後のスケジュールについて (6) その他</p>
<p>会議資料</p>	<p>資料1 議事次第 資料2 蒲郡市産業振興会議委員名簿 資料3 統計分析結果 資料4 アンケート調査及びヒアリング調査について 資料5 蒲郡市産業振興ビジョンの構成（案） 資料6 今後のスケジュールについて 資料7 蒲郡市産業振興基本条例 資料8 蒲郡市産業振興会議規則 蒲郡市産業振興ビジョンの検討への意見提出用紙</p>
<p>会議内容</p>	<p>1. 開会 2. 蒲郡市産業振興協議会委員の委嘱 3. 市長あいさつ ・平成 26 年から産業振興協議会において協議してきた産業振興基本条例が、令和 4 年 4 月 1 日から施行されている。この基本条例に基づいて産業振興ビジョンを策定することを目指している。皆様の高い見識と豊富な経験のもとに策定されることを願っている。 ・産業を取り巻く環境が大きく変化している。ウクライナ情勢や豪雨のような地球環境も大きく変化し、更に 2 年半にも及ぶ新型コロナウイルス感染症により産業界は大きくダメージを受けた。これらの影響を見据えて産業のあり方をビジョンとして捉える必要がある。 ・今回の産業振興会議は事業者、関係団体、大学、研究機関、行政、市民が一体となってビジョンを捉えて産業を進める大事なものになると確信している。この会議の皆様の協議が実ることを祈るとともに、蒲郡市の産業が未来に向けて発展することを期待する。 4. 蒲郡市産業振興会議委員あいさつ (1) 会議設置の経過 ・蒲郡市産業の発展を目指し、蒲郡市産業振興協議会が平成 26 年度に蒲郡商工会議所を事務局としてスタートし、令和 4 年 4 月に産業振興基本条例が制定された。 ・この条例に基づき、蒲郡市を事務局として蒲郡市産業振興会議を設置した。 (2) 委員あいさつ 5. 事務局の紹介</p>

6. 議題

(1) 蒲郡市産業振興会議の会長及び副会長の選出

- ・愛知大学の戸田敏行委員を推薦。

→ (異議なし)

- ・戸田会長あいさつ

本ビジョンは条例に基づくことから行政の総力で臨むものであり、かつ議会を通すことから地域の総力でもあるため、総合戦略であることが重要である。産業振興は都市計画的な土地利用、港湾、環境なども総合戦略としてどう組み込むかが重要である。相反するが、実行性を出すには絞る議論も必要になる。議論に終わらず実行できる戦略にすることが一つの結論になるのではないかと思う。蒲郡市は大変歴史があり、魅力のある都市である。更に観光都市であることや港湾都市の面から見ても開いた都市であるので、域外の力も利用しながら、実行性、総合性のあるビジョンになればと思う。

- ・副会長には高山委員を指名

→ (異議なし)

- ・高山副会長あいさつ

産業を連携させる視点を持ってサポートする。また、カーボンニュートラルの視点も加えながらサポートしたい。

(2) 統計分析結果について

- ・資料3の説明

(3) アンケート調査及びヒアリング調査について

- ・資料4の説明

(4) ビジョンの構成案について

- ・資料5の説明

(5) 今後のスケジュールについて

- ・資料6の説明

7. 意見交換

- ・農業分野での地産地消とは、市民が消費するという意味か？

→消費を地域に限定するのではなく、地域の小売業や観光業等に出荷して、域内外の方に消費してもらうことをイメージしている。

- ・農業分野では大規模化が示されているが、現状を考えると農業自体を維持することがまず重要で、規模拡大一辺倒では疑問に思う。将来的には必要になると思うが、現状は農業従事者が事業を継続してもらうことが先決である。

- ・鉄工会では生産年齢人口の減少、人材不足に問題意識を持っている。鉄工業の就業率が低いため、設備投資で対応することが喫緊の課題である。しかし、市内には工場が建てられる工場用地が極めて少ないことや、小規模事業所の多くが準工業地域に立地し、周りに家が増えたため騒音の苦情があるなど、従前のように事業の継続が難しくなっている。経営者の悩みが市政にうまく反映できてない現状があり、市街化調整区域に工場用地を確保するなどの施策を考えたい。

- ・何をもちて産業振興とするかが課題である。例えば、域内の総生産額が上がるのが良いのか、事業所数が増えるのが良いのか、小規模事業者が減っている中で起業、創業をどうするのかなどがある。また、生産性を上げるのであれば、効率化をするのか、独自のイノベーションで付加価値を上げるのかなどもある。さらに、まち全体で再教育のシステムを構築したり、近隣の大学を卒業したら蒲郡へ帰ってくるようなまちにするにはどうしたらいいのかなどを考えることも必要である。統計分析結果の数字をどう捉え、どこへ軸足を置くのかを考える必要がある。

- ・統計分析の数字と、政策のアウトプットとする数字は異なる。指標化するときには実感のない数字だと分かりにくいので、議論が必要である。
 - ・地域経済循環率の考え方をどこへもっていくか。サーキュラーシティ蒲郡との関連性はどうか。
 - ・ものづくりは外にマーケットを作り、観光や小売りは外から人を呼んでマーケットを作る。愛知県はものづくりの施策は多いが、外から人を呼んでマーケットを作る観光業などの産業はどうしていくか考える必要がある。また、蒲郡で起業・創業するとこんなメリットがある、という施策が必要ではないか。
 - ・自動車関連部品メーカーは大きな危機感をもっている。蒲郡市には三次下請けが多く、現在は短期的に多く仕事があるが、中長期的には今の生業でそのままやっていけないと思っている。企業内起業をどのようにやっていくか、専門のコンサルティング費用を補助する施策があると良い。
 - ・人材不足は賃金条件と労働環境を改善する必要があるので、企業競争力を高める必要がある。総合的なビジョンにする必要があるのは分かるが、何が目玉なのか、どういう方向なのか分かりづらい。地域経済循環がビジネスの市内完結に聞こえるが、当社でいえば 99%が外部のお客様であること、提携先を作りたい時も市内事業者へ限定すると競争力を低下させる恐れがあることなどがある。仮に市外事業者と連携する際に蒲郡市に誘致するのであれば、プラスアルファがある等があれば有難い。名古屋や東京は起業の補助金が多く、アントレプレナー教育を小中学生からやっている。蒲郡市でやるのであれば協力したい。
- 地域経済循環の考え方は、外から稼ぐことが大前提にあり、その稼いだ大半を流出させるのではなく、いかにして地域内で循環させるかという部分が重要になってくる。そういった意味で地域内で取引を拡大させる必要がある。現在の域内取引、域外取引を聞き取りして、市内でできることがあるのかを今後のアンケートやヒアリングで確認する。
- ・産業振興の定義、考え方が整理されていないのではないかと。既存企業の活性化や成長なのか、企業誘致や起業で新産業創出を増加するのかを整理する必要がある。企業誘致では「土地」「水」「労働力」がキーになるが、蒲郡市ではどれもがネックとなるため、どうしていくべきか考える必要がある。取引がグローバル化、非対面化している中、地域経済循環をどう捉えるかを整理する必要がある。本社機能の移転や一部従業員の移住が進んでいる中、蒲郡市はその移転先に向いている土地だと思う。また、産業振興ビジョンの最終的な目的や目標が分かりにくいのではないかと。
 - ・アフターコロナでインバウンドが増えるのは間違いなく、その対応は当然必要である。蒲郡市は 17 年前に観光交流立市宣言をし、東海エリアでもいち早く手を挙げた。風光明媚、温暖で交通の利便性が良く、食べ物がおいしい、温泉やヨット等観光資源が多いが、全国区では認知度が低い。観光の観点では、蒲郡市の魅力を知ってもらうことが定住につながり、そして人口増加へつながると思っている。個人客への転換は全国的に言われているが、蒲郡市は交通の利便性の観点から「MICE」「ワーケーション」に適している。企業の社員研修やスポーツ合宿にも焦点を当てるべきではないか。
 - ・産業振興ビジョンはビジネスへ特化しないと話が大きくなって分かりづらくなる。また、既存産業を育てることも必要で、そのためには競争力のある企業に成長させる施策が必要である。企業誘致の観点では、蒲郡には土地の問題があるため、近隣の地域に企業が来た時に蒲郡市の企業をコネク特できる仕組みも必要と思う。
 - ・様々な分野で様々なことをやっているのだから、この計画でどうまとめてどう戦略化するかを整理しないと総合計画と一緒にになってしまう。
 - ・ビジョンのキーワードは絞る必要があり、観光そのものだけでなく、「最高のワーケーションができる観光地」「すごく働ける観光地」等考えられる。KPI や数字に関しては、事業所数等で見るとはならず、新ビジネスの創出数等で見るとはならない。異分野を融合して新ビジネスを創出する等まち全体で仕組みができる。企業の中層の人たちが地域の中で活発にビジネスの話ができる場、気楽なプラットフォームがあると良い。

- ・既存の産業だけの融合では限界があり、地域全体としての融合なら広がる。
- ・食品製造では産地という発信の仕方が分かりやすいなどの発信できる強みと、横浜や金沢、京都のようにイメージできる個性が必要と思う。IT、テレワーク等蒲郡市のチャンスとなるようにどう捕まえていけるかが大事である。
- ・現状分析からどこへ向かうか方向性は精査しないとイケない。方向性、将来像どちらから入るのか、会議の進め方が明確になると意見が出やすくなるのではないかと。全国平均との分析だけでなく、愛知県の中で蒲郡市がどのポジションにいるのか、県内での比較という切り口があっても良い。ワクワクするような文章のビジョンにしたい。
- ・蒲郡のまちを形成する「ヒト」が希望を持てるビジョンになると良い。名古屋市産業振興ビジョンでは「イノベーションを実現する人材が育ち・集い、進化し続ける都市」を目指す姿とし、ビジョンと「ヒト」が近く感じる。また、蒲郡市では若い女性の流出が多いので食い止められるように貢献したい。
- ・水産業は魚がいないと商売にならないが、現在の三河湾には魚がいらない。埋立地が多くなり、魚が生まれる場所がなくなったことや、水を浄化し過ぎてリンや窒素を海へ放出しなくなったこと等が要因である。このため漁師は所得を維持することで精一杯で、子供を漁師にできない。後継者が漁業を続けられる海にして、安くておいしい地元の魚を提供していきたいので、水産業の立場を理解していただけるとうれしい。
- ・サーキュラーシティ蒲郡で市がどこへ向かっているのか、メンバー全員が共有する必要がある。地域経済循環における蒲郡市のモデルができてない段階で議論すると妨げとなってくる可能性があるため、目指す指標を先に議論する必要がある。
- ・サーキュラーシティ蒲郡は環境面が主体で、引っ張られ過ぎなくても良い。今年度は産業振興ビジョンを作ることがミッションとしてあるが、ビジョン策定後はPDCAサイクルの中で委員の方々と意見を出し合って連携して事業ができればという思いがある。地域経済循環率は市として何%を目指すのか等含めて計画し、ビジョン策定にあたっては、総論と各論を取り決める必要がある。労働力や人材の観点では教育的な視点が必要である等、委員で話し合っていきたい。

8. 連絡事項

- ・次回開催、意見提出方法等

9. 蒲郡市産業振興ビジョンの検討への意見提出用紙等での意見

- ・市内で操業する中小事業者は工場用地を求めている。市街化区域に比べて、安価な市街化調整区域での工場用地の確保が必要である。
- ・都市計画マスタープランにおける工業系地区（検討区域）の追加や研究開発系地区（検討区域）の見直しが必要である。
- ・事業再構築のためのコンサルタント費用に対する補助金の創設を求める。これは企業内起業（イントレプレナー）を創出につながる。
- ・アンケートやヒアリングの結果が、いつ頃どのように反映されるのか、また回答者が将来期待できるメリットはどのようなものがイメージできるのかを依頼文書にもう少しわかりやすく記載したほうが良いかと思う。
- ・「MICE への誘致活動を通じ、蒲郡での滞在時間を有意義に過ごせる観光地を目指す。」
- ・産業政策において、「サーキュラーシティ蒲郡」を前面に押し出すと、今後の細分化した指標や目標を立てる際に、矛盾が生じるのではないかと。
- ・産業振興に市外企業の力が必要である。
- ・人材不足の課題解決に必要なものは、競争力を高めることである。競争力を高めることで賃金や労働環境を向上させることができる。
- ・市外から見て魅力的なマチは、市民も自慢できる、魅力的なマチになる。

	<ul style="list-style-type: none">・条例には市民の役割が示されている。市民にもわかりやすく、また、キャリア教育推進の観点からも、絵や写真をおおいに使用し「わかりやすい、身近な」ビジョンにしたほうがよい。・条例に沿うビジョンにするために、一般性は必要だが、それだけでなく、エッジの効いた「蒲郡はここに特化していく」とわかるものにすることが大切である。それは、どの産業にも対応できるものが望ましい。例えば、ICT、マーケティング特化などが挙げられる。
--	---